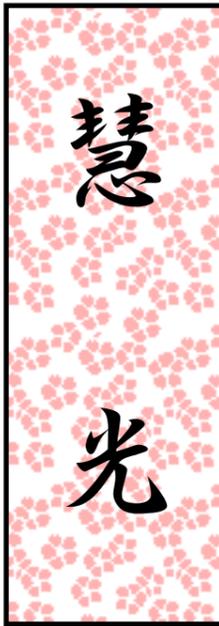




▲ 厳しい日ざしに負けず咲く桔梗 (8月6日撮影)



金光寺寺報
第206号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
☎ 0982
83-2338

今月法語カレンダーのことば

凡夫は すなわら われらなり

今月のことばは、親鸞聖人の『一念多念文意』にあるご文です。

私たちの身には、煩惱が満ちみちており、貪欲・瞋恚・愚痴という三毒の煩惱がひっきりなしに湧き起ってしまい、それはこの娑婆の縁の尽きるその最後の瞬間まで消えることがないというのです。

他人の悪いところはよく目につきますが、自分の悪いところはなかなか気付かないものです。自分勝手な心、自分本位な想い、自分中心な考えを縋じて、煩惱と呼ぶことができるでしょう。

1日24時間の内、私たちから阿弥陀さまを思う時間は、それほど多くはありません。朝夕の読経の際や、ふとした時に、阿弥陀さまを思う時もあります。何かのおりに、南無阿弥陀仏とお念仏を称えるときもあります。けれども、仕事に没頭している時、楽しく語

らっている時、激しく言い争いをしている時には、なかなか阿弥陀さまを思うことはありません。

けれども、阿弥陀さまは、片時も離れず、いつも、常に、私とともにいてくださるのです。凡夫であるわれらとともにいてくださる阿弥陀さまなのです。

「どうせ煩惱があるから…」と、煩惱を言い訳にははいけません。

煩惱を抱え、煩惱から離れることができず、しつこい煩惱にまわりつかれている自身は、恥ずかしい自分です。けれども、この恥ずかしい私に片時も離れず、煩惱の私を放っておけず常に見守り、傍に寄り添ってくれる阿弥陀さまのお心を、大切に聞かせていただきたいものです。

(本願寺出版社刊「大乘」誌掲載 『月々のことば』より抜粋 転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

- ◎ 8 月
 - 15日(水) 終 日
 - 24日(金) 終 日
 - 27日(月) 終 日
- ◎ 9 月
 - 13日(木) 終 日
 - 23日(日) 終 日
 - 26日(火) 終 日
- ◎ 10月
 - 23日(火) 午 後
 - 24日(水) 終 日

7月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

2018年 7月21日 満86歳
古賀西 藤川正行様

ホームページ開いています。

URL <http://konkouji.jp/>

8月7日現在アクセス数 82,896人

仏教名言ノート

兼好法師の『徒然草』の九十一段を
読みました。

兼好法師の『徒然草』の九十一段を
読みました。「赤吉日」ということは、陰陽道にも定説のないものである。昔の人はこの日を忌まなかった。近頃、何ものか言い出して忌みはじめたのであろうか。この日に「吉」とは成就せずと説いて、この日に言ったこと、したことは目的を達せず、得たものも失い、企てたこ

とも成功しないというのは愚劣なことである「から始まりませぬ」
赤吉日は赤口と同じで、陰陽道では万事に凶という日です。特に、公事・訴訟・契約などは凶というのです。兼好法師はこの赤吉日を痛烈に批判します。
「吉日を選んでしたことで成就しないのを数えてみたら、また同様の統計を得られよう」といいます。
早い話、大安に挙式したカップルの離婚率を調べてみよ、というのです。
「この世は無常で、万物は絶えず変化する、何が実在し、何が最終結果であるか確かでない。志は遂げられず、願いはかなえられない。人の心は絶え

ず動揺して、ものはみな幻にすぎない。この道理を知らないから、吉日だの悪日だのとこだわるのだ」と諭し、昔から「吉日でも悪事をしたら凶運。悪日でも善事を行えば吉」というのではない。だから、吉凶は「その人の行いによるのであって、日のよしあしによるのではない」と、きっぱりと結論づけています。
お正月です。新しい暦を前に、今年の行事予定を思い悩んでいるあなた。考えてみたい一句ではありませんか。
(本願寺出版社発行 辻本敬順著 「仏教名言ノート」から)

任職ひとりごと

ろ付思くらく掲一か合おそれで作一増しなはうも不に飲消り三年涼暑が以ま
しきいしな以載仏ら商言んてし業番えて一熱で飲快な物費ま三しいし外す7
く合ままい前始教一社業ないまででまいと中すま感つで量せはかつきす連。から
!いすしののめ名仏一を自るいす行すま言症よながてすがん本たは。日台ら
(下がたで文ま言教でか分よまがっ。すわでねい増出が多。堂のの本つ真風暑
住さ、。文字しノ用すりのうす、て佛。れ緊。とすて、く▼外の。本つ真風暑
い気少字サた一語。れ姿で。花い華▼な急一熱ばい飲なるんもす外最日よ日
。をしサイ。トの▼ばは腹努がまの暑い搬金中かきんるんもす外最日よ日
ど長見イズ文一豆さ一国が力すす水いよ送光症り、だのな暑く、にまよ雨続
うくづズで字に辞て煩会立をぐ。替とうさ寺にでか分はに。行くでう天いて
ぞしらはは数替典、悩議ち否に毎え仕にれのなすえだ冷暑た。ここここ
、てい小収がえ一今の員す。定傷日を事注た住り。つけたいた
松井卓郎) よおとさま多てを月総の。さんの朝も意げ職そでて汗いと